

第2次名護市観光振興基本計画

概要版



令和2年3月

名護市

第2次名護市観光振興基本計画概要版

- 目次 -

同基本計画策定に向けた調査・分析のこれまでの流れ(令和元年度).....	1
1. 観光振興に係る基礎調査・分析.....	2
・観光客動向結果(H30年度(冬季)~R1年度(夏季))	
・市民アンケート調査(R1年度)	
2. 地域との協働.....	8
・観光まちづくり勉強会概要(令和元年11月26日開催)	
・地区別意見交換会概要	
3. 第2次観光振興基本計画の検討.....	12
・観光振興の基本理念	
・将来像と基本方針	
・施策体系・具体的な取り組み施策	
・観光振興基本計画の効果検証を行うための成果指標と目標値、把握方法	
・観光振興基本計画の進捗管理手法	
参考1.第1次名護市観光振興基本計画の評価・検証(H30年度).....	17
参考2.観光振興に係る基礎調査・分析(H30年度).....	18

同基本計画策定に向けた調査・分析のこれまでの流れ

(令和元年度)

H30年度 基礎調査

第2次名護市観光振興基本計画策定に向けた調査・分析、地域との協働、基本計画の内容検討等を実施

- ①観光客動向調査(アンケート)、市民アンケート調査の実施
- ②観光まちづくり勉強会、地区別意見交換会等の実施
- ③第2次名護市観光振興基本計画の検討(懇話会を開催し検討)

【業務の流れ】

1. 観光振興に係る基礎調査・分析

- (1)関連計画等の調査と位置付けの整理
- (2)夏季観光客動向調査
- (3)市民アンケート調査

反映

2. 地域との協働

- (1)観光まちづくり勉強会
- (2)地区別意見交換会(5地区各1回)
- (3)北部広域との協働

3. 第2次観光振興基本計画の検討

- (1)観光振興に係る方向性の検討
- (2)効果検証を行うための成果指標設定とデータ収集分析手法の決定
- (3)計画の進捗管理手法の決定
- (4)ロードマップ及び事業体系図の決定

第2次名護市観光振興基本計画書の作成

成果のとりまとめ

懇話会による意見収集等

名桜大学(2名)、OCVB(1名)
観光関連事業者(2名)、
観光協会(1名)、商工会(1名)
名護市(1名)

第1回実施(R1年10月)

基礎調査進め方、内容の確認、観光振興基本計画の理念・方向性についての意見交換を実施

第2回実施(R1年11月)

先進地視察(伊勢市)含む

観光振興基本計画の効果検証について先進的に取り組んでいる伊勢市及び検証部会メンバーとの意見交換を実施。
上記意見交換を踏まえた、指標や進捗管理手法及び基礎調査の内容に関する意見交換を実施。

第3回実施(R2年2月)

第2次名護市観光振興基本計画の内容(理念、目標像、方針、具体的施策、成果指標、目標値、進捗管理手法等)について、意見交換を実施。

観光アドバイザー事務調整(2回)

第1回打合せ(R1年11月)

観光まちづくり勉強会時

観光まちづくり勉強会での参加者(事業者・市民等)向け講演、参加者による意見交換会の内容に対するアドバイス
基礎調査の内容や観光振興基本計画の方向性に関するアドバイス等

第2回打合せ(R2年2月)

第3回懇話会時

懇話会において助言

【観光アドバイザー】

大西 達也氏

一般財団法人日本経済研究所
常務理事 地域創造業務統括
地域未来研究センター長 兼 調査局長

※観光アドバイザーは、沖縄県文化観光スポーツ部の制度を活用し、専門的な知識を有する観光まちづくりアドバイザーに依頼し、全国の先進事例の紹介等、大局的な視点から観光について助言。

<※上位関連計画>

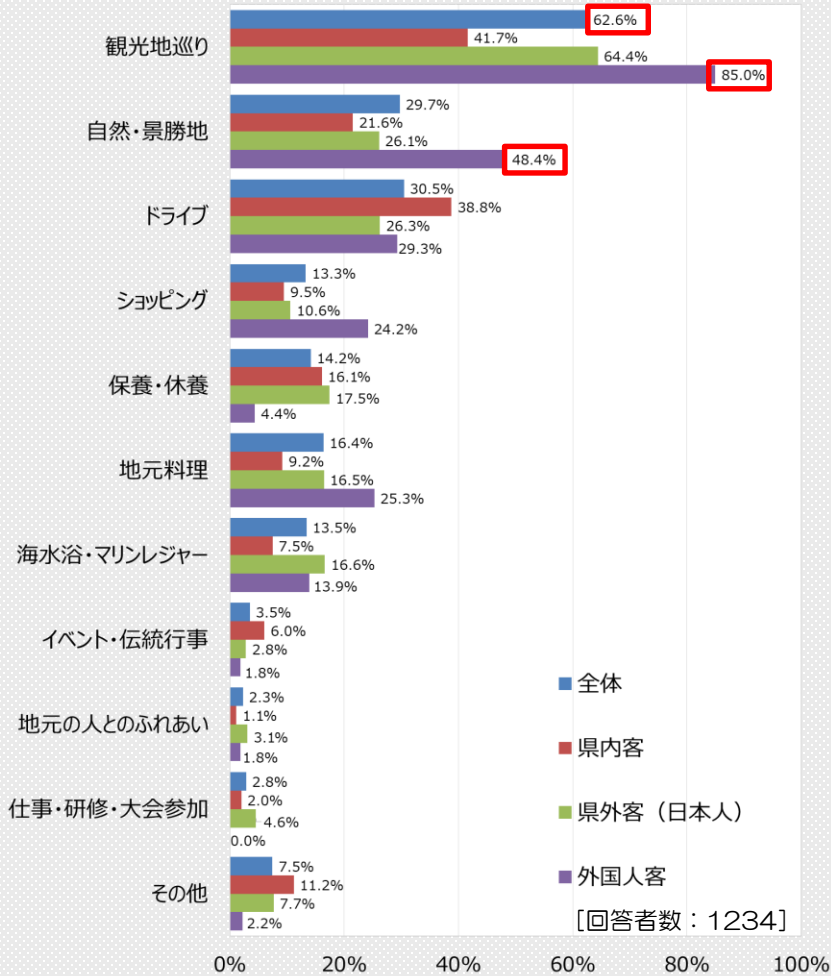
- ・観光立国推進基本計画(計画期間：H29年度～R2年度)
- ・第5次沖縄県観光振興基本計画(計画期間：H24年度～R3年度)
- ・沖縄21世紀ビジョン基本計画(計画期間：H24年度～R3年度)
- ・第5次名護市総合計画(計画期間：【構想・地区別計画】R2年度～R11年度、【計画】R2年度～R6年度)

1. 観光振興に係る基礎調査・分析

観光客動向結果(H30年度(冬季)～R1年度(夏季))

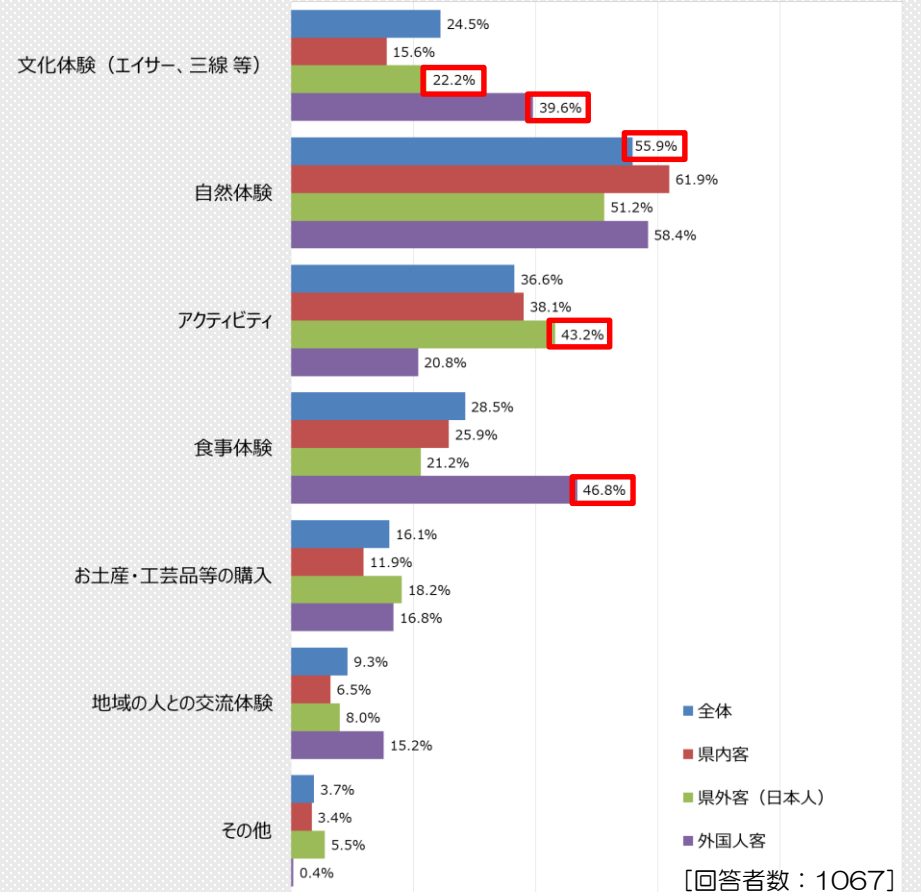
(1) 名護市内を訪れた理由

- 全体では、「観光地巡り」を理由としている人が最も多い。特に、外国人客が多い傾向にある。
- 外国人客では、「観光地巡り」に加え、「自然・景勝地」の理由が多い。



(2) 期待度の高いコンテンツ

- 全体では、「自然体験」に対する期待度が最も高い。
- 外国人客では、「自然体験」に加え、「文化体験」や「食事体験」への期待度が高い。
- 県外客(日本人)では、「自然体験」に加え、「アクティビティ」や「文化体験」への期待度が高い。



→ 名護を訪れる理由としては、自然・景勝地の割合が高く、期待度としても自然体験や文化体験などの割合が高い。

→ ターゲット別の期待している事項を踏まえた取り組みが必要。

1. 観光振興に係る基礎調査・分析

市民アンケート調査(R1年度)

(1) 調査概要

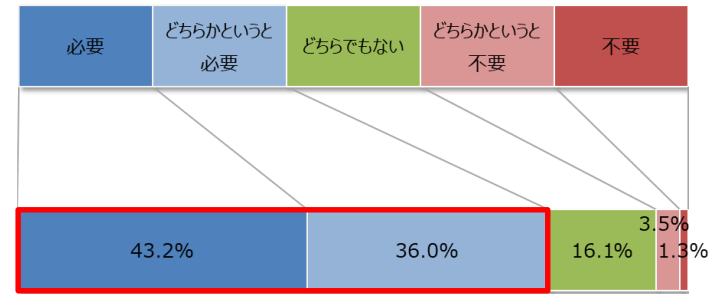
○回答者の約11%が観光関連産業に従事していると回答。

期間	令和2年1月24日～2月7日（締切）			
配布数	1,600通 （区別の世帯数の構成比に基づき配布数を設定）			
回収数	地区	配布数	回収数	回収率
	名護	910	190	20.9%
	羽地	218	37	17.0%
	久志	129	19	14.7%
	屋部	301	66	21.9%
	屋我地	42	6	14.3%
	未回答	-	22	-
	合計	1,600	340	21.3%

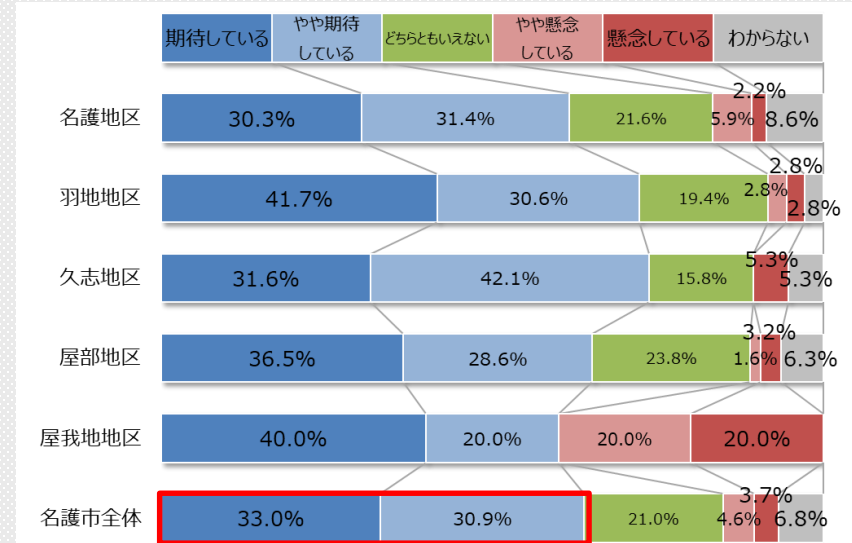
(2) 名護市における観光振興

○名護市全体においての観光振興については必要と回答した割合が高く、今後の観光による地域活性化の取り組みについても期待していると回答した割合が高かった。

①名護市全体において観光振興の必要性



②名護市の今後の観光による地域活性化の取り組み

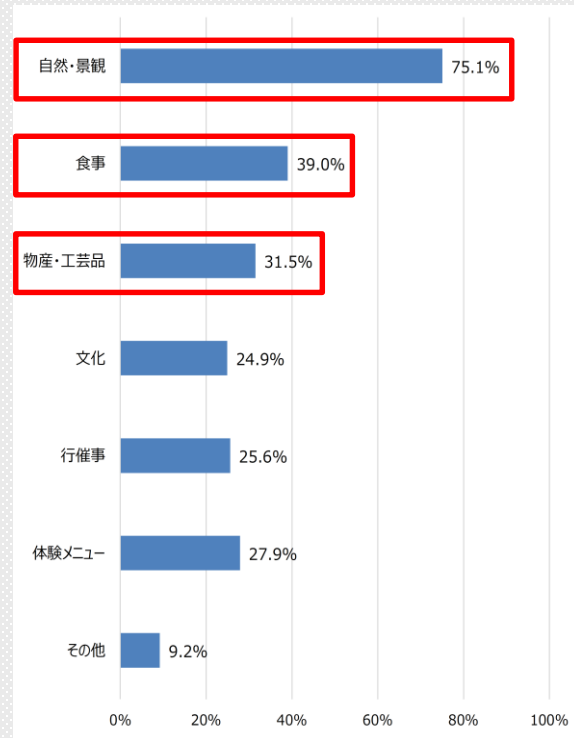


1. 観光振興に係る基礎調査・分析

市民アンケート調査(R1年度)

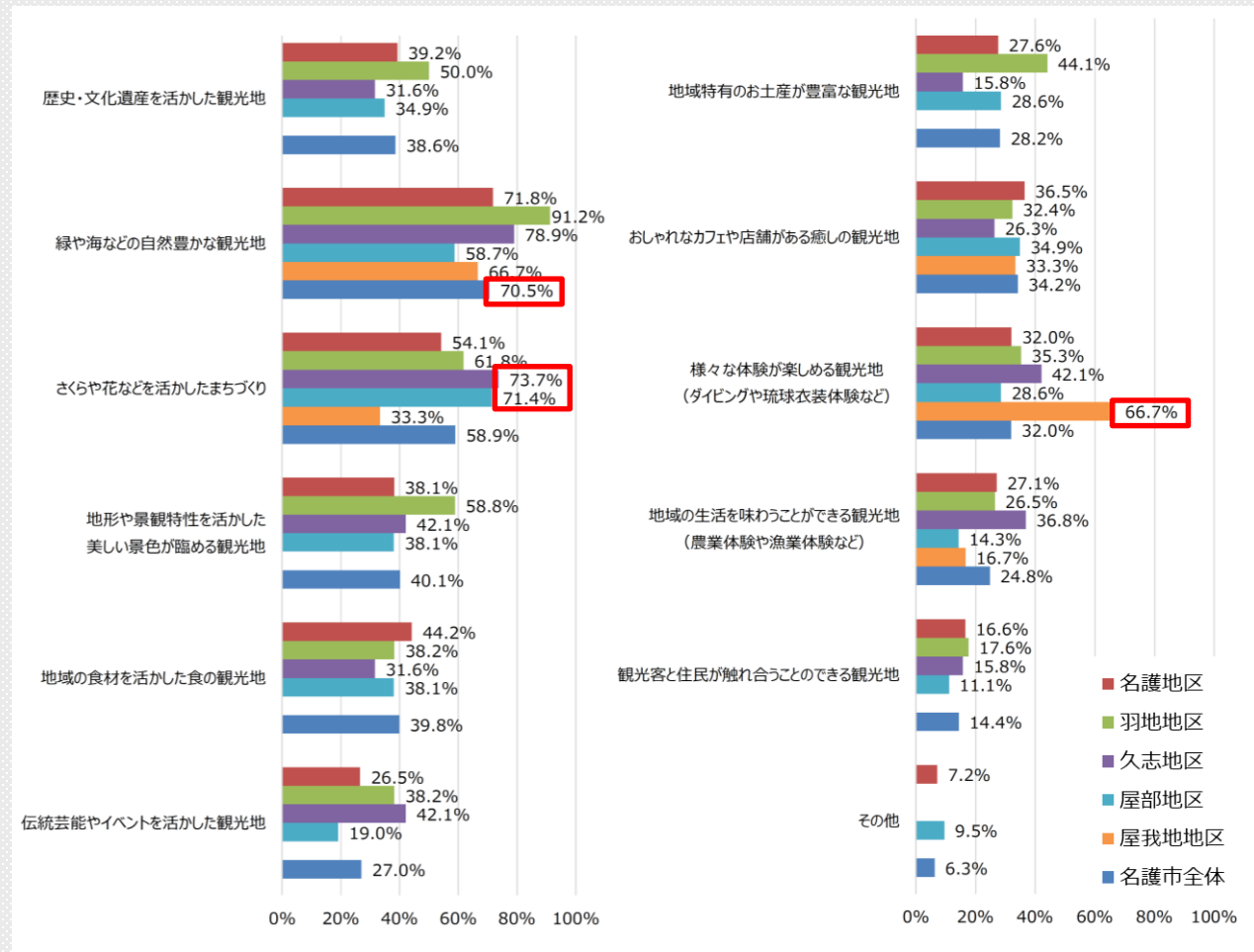
(3) 名護市における観光資源

○「自然・景観」が最も多く、次いで「食事」「物産・工芸品」だった。



(4) 名護市らしいまちの姿

○名護市全体では「緑や海などの自然豊かな観光地」が最も多かった。
 ○地区別では、久志地区や屋部地区では「さくらや花などを活かしたまちづくり」、屋我地地区では上記に加え「様々な体験が楽しめる観光地」が多かった。



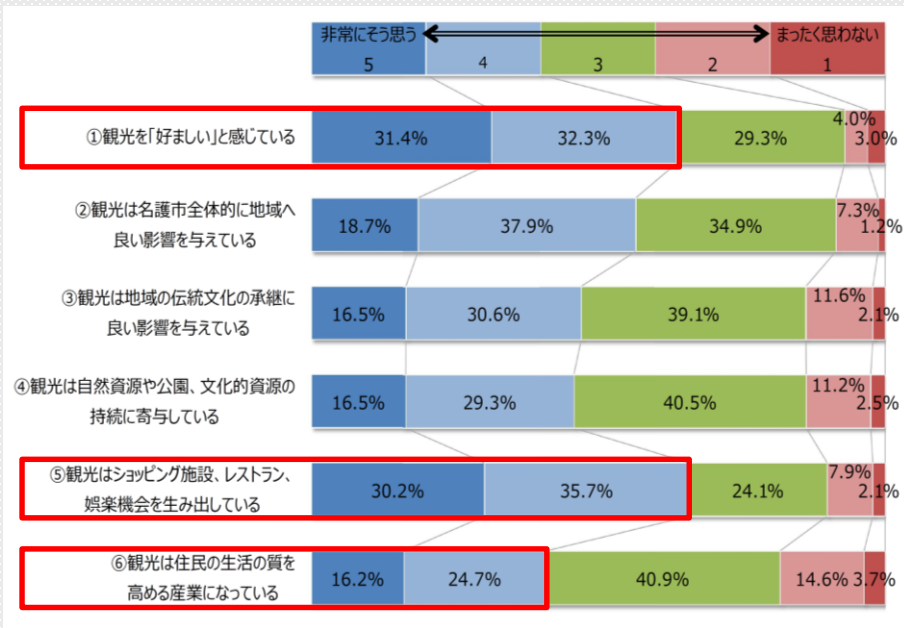
→ 名護市全体及び各地区において、自然・景観が名護市における観光資源や名護市らしいまちの姿としてとらえられている。

1. 観光振興に係る基礎調査・分析

市民アンケート調査(R1年度)

(5) 名護市の観光への意識

○「観光を好ましいと感じている」や「観光はショッピング施設、レストラン、娯楽機会を生み出している」の項目で実感の割合が高い一方で、「観光は住民の生活の質を高める産業になっている」項目では実感の割合が低かった。

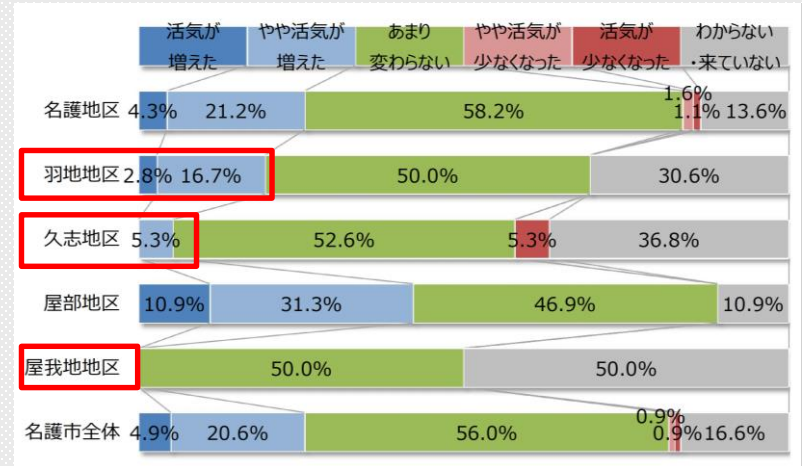


→ 観光が好意的に受け入れられているものの、生活の質や地域の活気、経済効果という観点では、市民の実感が薄く、地域差も生じている。

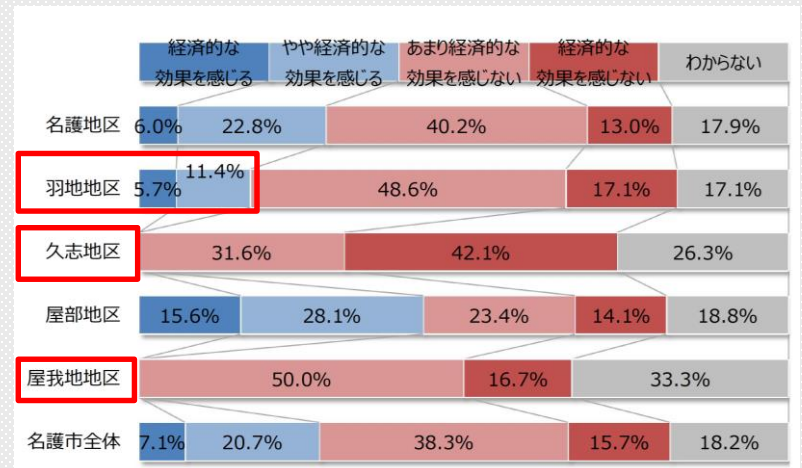
(6) 市民の実感

○地域の活気と経済効果について、地区別では、羽地地区、久志地区、屋我地地区において地域の活気や経済効果の実感が低かった。

① 地域の活気の実感



② 地域の経済効果の実感



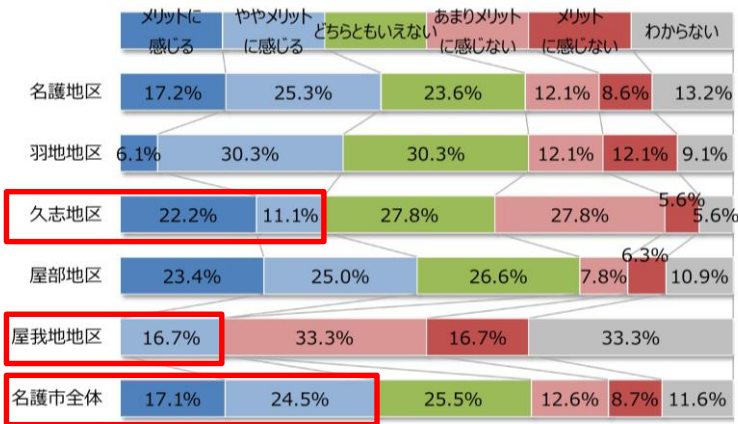
1. 観光振興に係る基礎調査・分析

市民アンケート調査(R1年度)

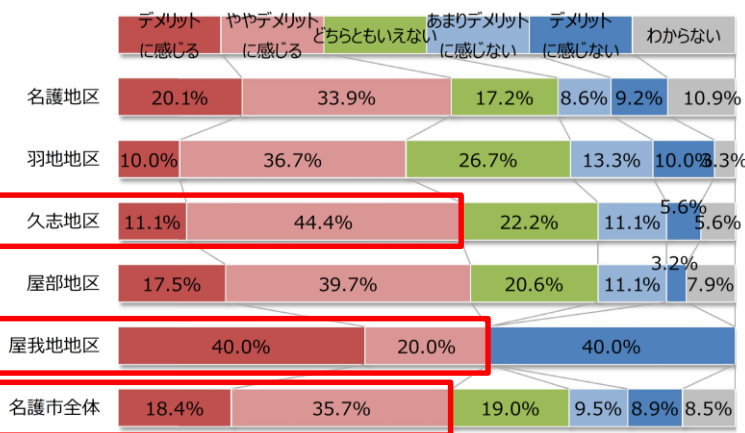
(7)各地区における観光振興のメリット・デメリット

○名護市全体では、メリットよりもデメリットに感じている割合の方が高く、特に、久志地区や屋我地地区では、メリットに感じている割合とデメリットに感じている割合の差が大きかった。

①観光振興のメリット

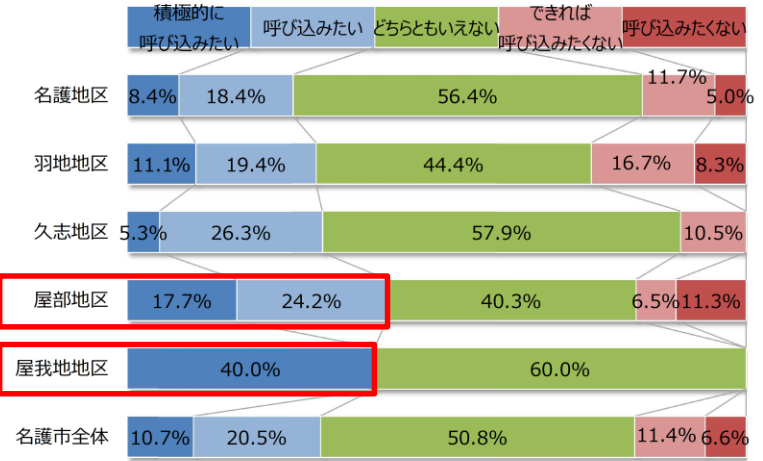


②観光振興のデメリット



(8)各地区における観光客の呼び込み意向

○観光客の呼び込みについて、屋部地区や屋我地地区では他地区と比較すると呼び込みたい傾向にあった。



→ 観光及び観光客を呼び込むメリットを市民が実感できる取り組みが必要

2. 地域との協働

観光まちづくり勉強会 概要(令和元年11月26日開催)

(1)開催概要

①開催日時： 令和元年11月26日(火) 9:00~12:00

②場所： 名護市産業支援センター 2F 中会議室

③参加者： 17名
(事業者、活動団体、区長等)

④次第：

1.主催者挨拶(名護市)

2.本日の趣旨説明・講演者のご紹介

3. 講演

3-1.講演

大西達也氏／一般財団法人日本経済研究所 常務理事、地域未来研究センター長兼調査局長)

「地方創生の実現に求められる地域人材“志民”の育成

～学びと実践のためのゆるやかな組織の可能性～

4.ディスカッション

4-1.内容説明・話題提供

4-2.ディスカッション

テーマ1:名護市が目指す将来像について(5年前を振り返り、5年後を予想する、名護の魅力とは)

テーマ2:目指す将来像を踏まえ、観光振興計画に位置づけたい取り組み

テーマ3:観光目標達成のための協働体制やそのための課題

4-3.ディスカッション結果の共有

4-4.総括

5.意見交換

6.今後の進め方に対するご意見



講演の様子



ディスカッションの様子

(2)講演概要

- ・「まちづくり」も「しごとづくり」も基礎となるのは、「ひとづくり」である。
- ・地域内で活動に意欲的な「志民」をいかに発掘し、育成していくのが重要である。
- ・今後は、住民参加によるまちづくりを行い、行政・住民・企業が協働したモデル構築が必要である。
- ・地方創生に向けて以下の4つのステップが重要である。
 - ⇒継続的なフォーラム(勉強会)形成・・・何かをきっかけに、問題意識を持つ人たちの集まりができる。
 - ⇒散発的→継続的な取り組みが始まる・・・特定の地区で継続的なイベントが実施される。
 - ⇒動きが面的につながる地区が生まれる・・・面的な広がりをもつイベントなどが飛び火して拡大する。
 - ⇒再活性化投資が行われる。

<参加者意見>

- ①事業を継続させていくために、観光ビジネスのプラットフォームを結成することが重要だと考えているが、結成するためのアドバイスはあるか。
 - ⇒行政に頼らず、大学・企業・住民が連携していくことが重要である。できる限り補助金には頼らず、企業の協賛など資金集めも含めて自らの工夫で取り組んでいく必要がある。新たな組織は、ゆるやかで、連携で多くの人々が参加しやすいようにすることが必要である。
- ②今後、志のある人(志民)を集めていくにはどうすればいいのか。
 - ⇒志民は、地元だけでなく外部にもいるため、外部との関わりの仕組みを考えていく必要がある。また、集客効果などのメリットが見える化することにより協賛企業も出てくる。

→ 人づくりが重要であること、行政に頼らず、大学・企業・住民が連携していくことが重要であることについて、共通認識を持つことができた。

2. 地域との協働

(3)ディスカッション結果

名護市が目指す将来像について（5年前を振り返り、5年後を予想する、名護の魅力とは）	
<p><5年前の振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食の多様化 ・ホテル数の増加 ・WiFiが使えない ・旅行の多様化 ・観光客が増加 ・インバウンドの増加 ・行政と民間の協議・連携する場がない ・予算の切れ目が雇用の切れ目 	<p><5年後を予想する></p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマパーク ・港湾の整備（名護湾計画） ・情報発信（SNS、WEB） ・レンタカーステーション ・移住者の増加 ・歩いて楽しめるまちづくり ・事業者同士の連携 ・旅行形態が拡がり、顧客範囲の拡大
<p><名護市の魅力></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然（名護湾の風景、羽地内海、遊べる自然、山と海が近い環境、夜空、星、川の音、虫の声） ・交通（自転車道、空港アクセス） ・食（そば、あぐー、75ビール、果物） ・場（球場、ビーチ） ・イベント（さくら祭り） ・地域に琉球文化が残っている ・1町4村のアイデンティティが残っている 	

<p>目指す将来像を踏まえ、観光振興計画に位置づけたい取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・那覇空港からのアクセス（船、バス、鉄道など） ・情報発信（ネット活用など） ・QRコード、キャッシュレス対応 ・歩ける街づくり（市街地、ビーチ沿い） ・地域資源を活かした環境整備（シャワー室、トイレ、休憩所など） ・市内の交通網の整備（循環バスなど） ・スポーツをテーマとした取り組み

観光目標達成のための協働体制やそのための課題	
<p><協働体制></p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と民間との連携 ・情報の一元化 ・志民の結成（志民：取り組み意識の高い市民のこと（造語）） ・人材発掘・育成（大学生など） ・広域連携（12市町村との連携） 	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰がいつどのように行うのか。 ・観光業の人材確保 ・音頭をとる人 ・観光客目線での街づくり ・公共交通機関の充実 ・インバウンドの受入体制

→ 自然の魅力や食・琉球文化が地域に残っていることが名護市の魅力であるという意見が多く挙げられた。

→ 協働体制や人材育成、広域連携が課題であることが挙げられた。

2. 地域との協働

(1)開催概要

- 5地区合計72名が参加。
- 参加者は、市民、事業者、区長、観光協会青年部（STEP）等

地区	実施日 (19:00~21:00)	参加者数
屋我地地区	令和2年2月3日(月)	13名
屋部地区	令和2年2月4日(火)	11名
名護地区	令和2年2月5日(水)	24名
久志地区	令和2年2月6日(木)	19名
羽地地区	令和2年2月7日(金)	5名
合計		72名



(2)意見交換結果(主なもの)

①魅力・観光資源と活用に向けた課題

地区	魅力・観光資源とは	魅力や観光資源を活用していく上の課題
屋我地地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ひるぎ学園 ・集落内の景観、星空 ・羽地内海、済井出海岸 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然保全及び文化財の整備 ・組織体制の構築 ・イベント担い手及びガイドの育成 等
屋部地区	<ul style="list-style-type: none"> ・原風景、町と海と山、フクギ並木 ・八月踊り、豊年祭 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・収益性が確保できるプロモーションを開拓 ・観光産業の目的を共通認識を図り、他産業と連携 等
名護地区	<ul style="list-style-type: none"> ・そば、お酒 ・都市と自然 ・青年会エイサー ・ネオパーク、名護漁港 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・名護漁港の整備や空き家の活用 ・地元とのルール作りを行いながら、観光客が利用しやすい環境を整備 ・担い手となる人材の育成 等
久志地区	<ul style="list-style-type: none"> ・カヤック等体験、農業 ・川、砂浜、生物、海 ・伝統作物、アグー ・わんさか大浦パーク ・サイクルツーリズム 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・稼ぐ仕組みがほとんどない ・伝統と観光の両立 ・ブランディング ・認知度が低い ・活用できる人材の育成 等
羽地地区	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化、青年会、人々の暮らし ・羽地鶏、卵、羽地米、酒造 ・事業者がいる ・羽地の駅 ・名護中心部から近い 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・特産品を使った加工品の開発 ・内海の漁業を体験、食として売り出す ・持続可能な観光、暮らし ・拠点施設や既存事業者の活用 ・活用される側から提供する側へ 等

- 自然や体験、飲食、歴史等文化、特産に関連する資源が挙げられた。
- 地区内で事業者や区と観光に関して話し合う場がないという課題が挙げられた。
- 地域のブランディングや認知度の向上、観光で稼ぐ仕組みがないこと、地区内の資源が地区内の振興や活性化につながっていないという課題が挙げられた。

2. 地域との協働

(2)意見交換結果(主なもの)

②ターゲット・観光振興計画に位置付けたい取り組み

地区	ターゲット	観光振興計画に位置付けたい取り組み
屋我地地区	①合宿する人（スポーツ、アウトドア） ②学校教育の場 ③観光しながら働ける場（コワーキング）	<ul style="list-style-type: none"> ・内海や海岸線の活用 ・住宅と観光のすみわけ ・観光のための組織化（屋我地DMO） ・担い手育成 等
屋部地区	①質を重視する人（余暇を楽しむ人） ②家族連れ（ルール・モラルが分かる人）	<ul style="list-style-type: none"> ・先代の人達の知識を学べる、自由研究の場 ・地域内経済の循環 ・人材育成 ・観光の観点での地域のゾーニング 等
名護地区	①長期滞在者 ②学校関係者 ③スポーツ関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・やんばる観光の拠点（案内所の整備） ・名護漁港整備（屋台設置） ・夜の遊び場（夜市の開催、スナック活用） ・名護市内を周遊できる仕組み（レンタサイクル、カーシェア） ・空港から直接行ける仕組み（レンタカー、バス、モノレール） ・季節毎の魅力発信、プロモーションの充実 ・魅力を語り観光振興や地域活性化を支援する人材の育成 等
久志地区	①質を重視する人 ②地域貢献する人	<ul style="list-style-type: none"> ・行事ごとのツアー企画 ・伝統芸能の継承につなげる仕掛けづくり ・観光振興する組織の育成・支援 ・魅力的な土産の開発 ・ターゲットに情報が届く仕掛けづくり 等
羽地地区	①アウトドア関係者 ②学校教育の場 ③地域貢献する人	<ul style="list-style-type: none"> ・羽地の駅の活用 ・環境保全型観光（エコツーリズム、サスティナブルツーリズム） ・羽地だけでなく周辺地域を巻きこんだ観光地づくり ・地域支援員を継続的に配置 等

- 名護の魅力を観光客に伝えることができ、観光振興や地域振興を支援する志を持った人材の育成が必要。
- 持続可能な観光振興をするためには、地域のコンセンサスを得つつ地域間でお金の好循環の仕組みが重要である。
- 地域の民間事業者の連携による取り組みについて、行政によるサポートの要望があった。
- スポーツ合宿等、長期滞在の誘客により、北部地域が宿泊の拠点となることで交通混雑の緩和が図られ、北部の活性化につながる。
- 屋我地ひるぎ学園のように域外から生徒を取り込んで地元が活性化している事例もあり、あらゆる分野から活性化策を検討することも重要。

3. 第2次観光振興基本計画の検討

基本理念は第1次基本計画を踏襲しつつ、各種調査等の結果を踏まえたサブテーマを新たに設定

観光振興の基本理念

自然とまちが融合した魅力あふれる“やんばる観光の拠点・名護”

～ 人と豊かな自然・文化を活かし、訪れた人の心と地域を豊かにする、活力ある協働の地域づくり ～

○人と豊かな自然・文化

豊かな自然環境により、他地域では体験、体感できない本物の自然や沖縄固有の自然があり、地域の結びつきの強さなどにより、**生きた伝統文化**が残っていることが**名護市らしさ**と捉え、地区毎や季節毎に多様な魅力を発揮する地域資源を活用した**本物の名護**を地域の人が伝え、訪れた人の心を豊かにする

○活力ある地域づくり

やんばるの玄関口として「**広域連携**」体制を構築し、やんばる全体や市域での**経済循環**を創出（名護を拠点にやんばるの魅力を創出し、**地域を豊かにする**）

○協働の地域づくり

民間事業者との市民とのルールづくりや連携、持続的な協働による観光地域としての魅力化と活性化、住民活動・住民生活との協働を通じた地域の魅力の底上げ等、**持続可能な観光地域形成のための「民間活力（協働）」**の推進

3. 第2次観光振興基本計画の検討

将来像

○滞在型観光地として付加価値の高いメニューが充実している

○外国人、MICE、スポーツといった様々なツーリストを受け入れている

○北部の玄関口としての機能を果たしている(情報面や滞在面)

○観光振興のための市民と観光関連事業者、観光関連組織の連携、協働体制が構築され、取り組みを通じて市民が誇りや豊かさ、住みよさを実感している

4つの基本方針

基本方針2(受け入れ体制)、4(体制の確立・強化)と基本方針3(マーケティング・プロモーション)に取り組み、基本方針1の達成に取り組む構成とする

基本方針1.
名護市内への滞在促進

基本方針2.
様々なツーリストの受け入れ体制充実

基本方針4.
観光振興の推進体制の確立・強化

基本方針3.
マーケティング・プロモーションの充実

3. 第2次観光振興基本計画の検討

基本方針	具体的な取り組み・施策
基本方針1. 名護市内への滞在促進	1-1.多様な資源を活用した滞在メニューの提供
	1-2.イベントの着地型コンテンツとしての見直し
	1-3.中心市街地の滞在促進
基本方針2. 様々な観光客の受け入れ体制充実	2-1.広域も含めた観光案内機能の充実
	2-2.外国人受け入れ環境の充実
	2-3.様々な観光客の受け入れ環境の充実
	2-4.広域連携体制による受入推進
	2-5.観光人材等の確保・育成
	2-6.危機管理体制の構築
基本方針3. マーケティング・プロモーションの充実	3-1.継続的なデータの取得・分析
	3-2.来訪者のニーズに応じたプロモーション手法の構築
	3-3.地域のブランド育成・強化
	3-4.ブランドを活かしたプロモーションの実施
基本方針4. 観光振興の推進体制の確立・強化	4-1.地域(市民・事業者)の観光振興に対するコンセンサスの形成
	4-2.市内の観光振興体制の強化
	4-3.産学官連携体制構築
	4-4.広域連携体制の充実

3. 第2次観光振興基本計画の検討

基本方針	指標	把握方法	基準値 (H30～R1実施の調査結果から設定)	目標値 (第3次策定年度(R6)の値)
基本方針1. 名護市内への滞在促進	平均滞在時間 (ポイント)	観光客アンケート	71.2% 【「半日程度」以上の合算割合】	78%
	平均立寄箇所数 (箇所)	観光客アンケート	2.3箇所	4箇所
	観光消費(円)	観光客アンケート	13,306円 【一人当たりの観光消費額】	14,400円
	満足度(ポイント)	観光客アンケート	87.4% 【「大変満足+やや満足」の合算割合】	90%
	市民の地域経済効果の 実感 (ポイント)	市民アンケート	27.0% 【「感じている+やや感じている」の合算割合】	30%
	事業者の地域経済効果 の実感 (ポイント)	事業者アンケート	56.4% 【「効果を感じている+やや感じている」の合算割合】	65%
基本方針2. 様々なツアーリストの受け入れ体制充実	入込客数(人)	観光施設等への モニタリング調査	5,126千人/年	6,025千人/年
	宿泊客数(人)	宿泊事業者への モニタリング調査	1,333千人/年	1,366千人/年
基本方針3. マーケティング・プロ モーションの充実	市民の観光の認知度 (ポイント)	市民アンケート	－% (初回調査時に設定)	－% (初回調査時に設定)
	魅力度(ポイント)	Webアンケート	－% (初回調査時に設定)	－% (初回調査時に設定)
基本方針4. 観光振興の推進体制 の確立・強化	市民の理解度 (ポイント)	市民アンケート	62.9% 【「非常にそう思う+ややそう思う」の合算割合】	75%
	市民の満足度 (ポイント)	市民アンケート	39.6% 【「非常にそう思う+ややそう思う」の合算割合】	50%
	事業者の観光振興の推 進体制の確立・強化の 実感(ポイント)	事業者アンケート	－% (初回調査時に設定)	－% (初回調査時に設定)

※アンケートは「観光客アンケート+事業者アンケート」、「市民アンケート+Webアンケート」を実施時期をずらし、それぞれ2年に1回実施。モニタリング調査(観光施設等、宿泊事業者)は毎年継続して実施。

3. 第2次観光振興基本計画の検討

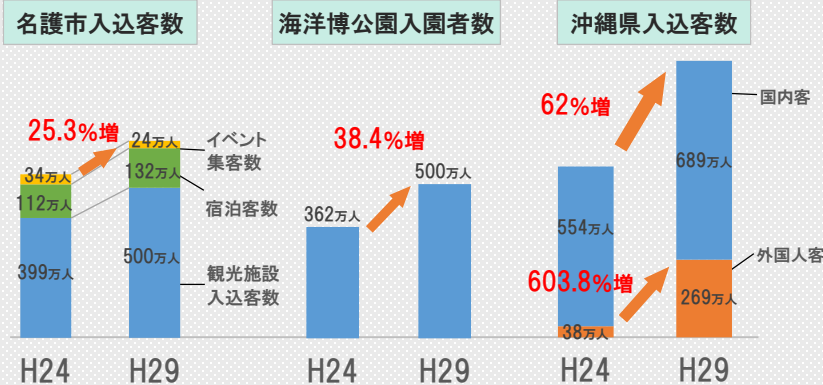
観光振興基本計画の目標値は、下記2つの会議を開催し、進捗管理と見直しを行う。
 両会議は、見直し結果が次年度の市及び観光協会等の施策に反映可能な時期に開催する。
 (検証部会は先進地視察を実施した伊勢市の体制を参考としている)

	メンバー	開催頻度	実施内容
①推進会議	副市長を筆頭に各部の部長が 委員として参加 【庁内会議】	年1回 (②実施後)	・②を踏まえた、名護市としての観光 振興に関する施策の改定等
②名護市観光振興 基本計画推進会議 検証部会	・計画策定懇話会構成員 (学識経験者、観光協会、 商工会、OCVB、民間有識者) ・北部広域市町村圏事務組合 ・各地区民間事業者の代表 ・観光協会青年部(STEP)等 【民間事業者を交えた会議】	年1回	・成果指標の達成状況の確認 ・確認結果を踏まえた課題の共有、 改善策等に関する意見交換(市内 で実施した観光関連イベントの実 施状況の振り返り等も実施)

参考1. 第1次名護市観光振興基本計画の評価・検証(H30年度)

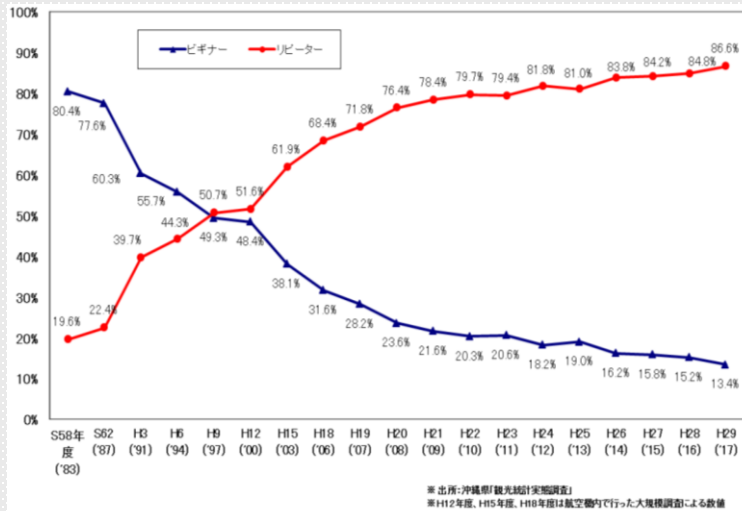
(1) 外部環境の変化(観光客の入込動向)

H24年～29年の5年間で沖縄県の入込客数は62%増加しているが、名護市では約25%の増加にとどまっている。



(※名護市入込客数、海洋博公園入園者数は暦年のデータ、沖縄県入込客数は年度のデータ)

参考：沖縄県来訪者の初回来訪率とリピーター率の推移(国内客)



→ 来訪者の取りこぼし、特に外国人やリピーターの獲得ができていない可能性が高いことが推測される。

(2) 施策の評価

実施済みが11件、未実施が6件。また、実施するも、一部未達成が11件あり、その評価・検証が必要。未実施・未達成については、その原因を要把握。

(○概ね達成 △一部未達成 ×未達成)

基本方針	プロジェクト	事業実施状況	施策の評価
(1)基本方針1 既存資源を活かした新たな観光魅力の創出	1-1 観光資源の発掘と魅力づくり	済	△
	1-2 スポーツコンベンションの推進	実施中	△
	1-3 イベント・まつりの再検討と効果的な活用	未	×
	1-4 特色ある体験型観光の促進	済	△
	1-5 滞在体験型観光施設の立地促進	済	△
	1-6 「食」を活用した観光の推進	済	○
	1-7 MICEの誘致	未	×
	1-8 広域連携の促進	済	△
	1-9 観光交流の推進	済	△
	1-10 自然環境へ配慮した観光の推進	済	△
(2)基本方針2 観光プロモーションの推進	2-1 マーケティング調査の実施	未	×
	2-2 送客サイドとの関係構築と働きかけ	済	△
	2-3 マーケティングミックスの強化	未	×
	2-4 効果的なPRの推進とプロモーションの充実	済	△
(3)基本方針3 観光推進体制の確立	3-1 観光推進体制の見直しと強化	未	×
	3-2 情報提供機能の強化	済	△
	3-3 観光施策の点検・評価	未	×
	3-4 観光人材の育成	済	△

→ プロジェクト毎の課題を踏まえた、次期計画の施策立案や、今後の対応として進捗モニタリングを通じた着実な事業実施が望まれる。

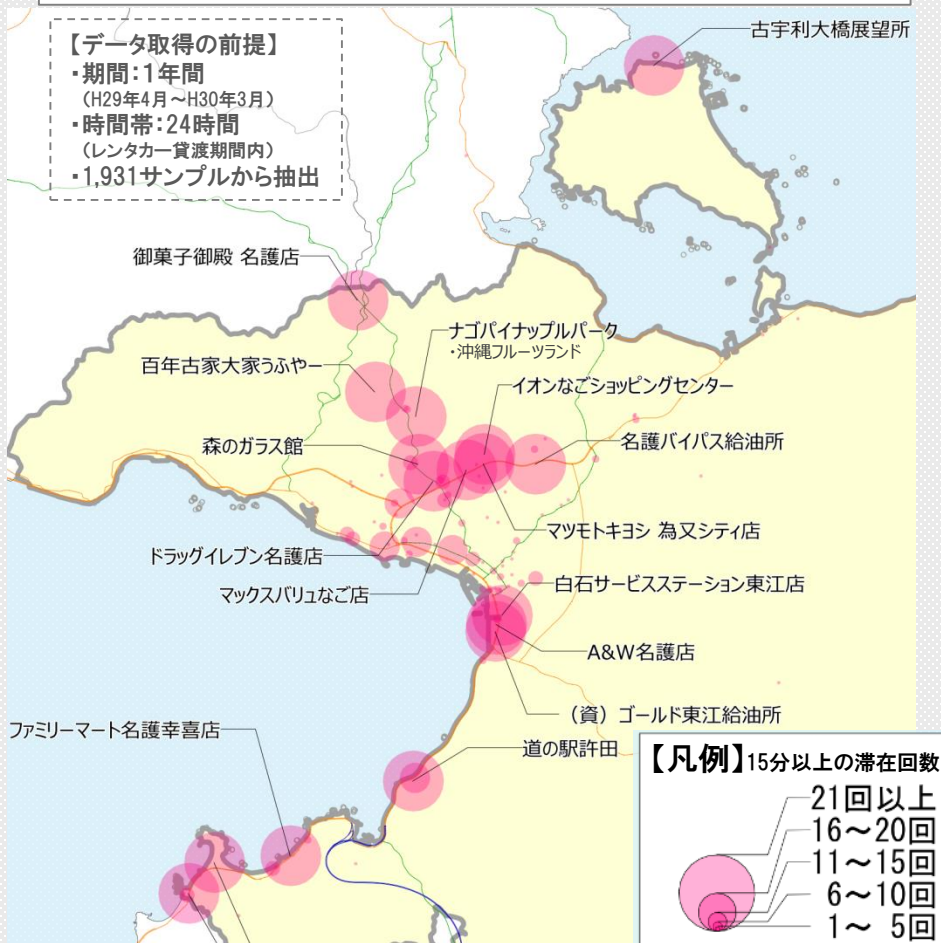
参考2. 観光振興に係る基礎調査・分析(H30年度)

① レンタカーGPS調査

○観光客の立ち寄り箇所は、西海岸側・美ら海水族館への動線上に偏在している。(カーナビでは道の駅許田方面から、名護東道路経由で美ら海水族館へのルートを案内されることも多い)

【データ取得の前提】

- ・期間:1年間
(H29年4月~H30年3月)
- ・時間帯:24時間
(レンタカー貸渡期間内)
- ・1,931サンプルから抽出



→ 東海岸側や屋我地・羽地、名護湾の沿岸等を含む
新たな動線づくりが求められる

② 北部圏域の現況調査 (ヒアリング調査)

【調査対象: 沖縄県観光政策課、OCVB、周辺4町村、北部広域市町村圏事務組合等】

＜北部への滞在時間の増加＞

○名護市に宿泊することにより、北部全体の滞在時間が延長することが期待されている。

＜二次交通の充実＞

○クルーズ船の増加の見通しや海上交通の実証などの動きを受けて本部半島の二次交通の不足についての指摘する意見が多い。

＜連携体制の構築＞

○観光客の増加に伴い北部広域の連携の必要性を指摘する意見が多い。

○名護市に交通拠点としての役割や、北部の連携を牽引する役割を期待する意見が多い。

③ 市内の観光動向調査 (ヒアリング調査)

【調査対象: パイナップルパーク、フルーツランド、マリオットホテル、カヌチャベイホテル等】

＜施設への入込数の概況＞

○観光施設の利用者数は、一部施設ではインバウンド等の新たな顧客を取り込みきれず減少傾向にある。

＜観光客受入の課題＞

○多言語での対応や、人材の確保について課題を指摘する意見が多い。

＜その他＞

○「さくらガイド」による道の駅許田での案内は、名護に限らない北部の生の情報を提供できているため観光客の満足度は上がっていると考えられる。

○市内での宿泊が増え北部の滞在時間が増えることにより、市内の施設間での客の奪い合いが減り、市内事業者にとってメリットが大きいと考えている事業者もいる。

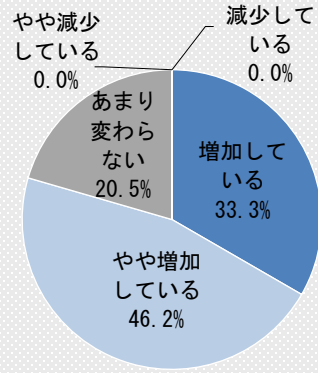
→ 北部で連携して観光客の誘客・受入を行うことや、名護を拠点として機能することについて前向きな意向が聞かれている。

参考2. 観光振興に係る基礎調査・分析(H30年度)

④市内事業者調査

(1)市内を訪れる観光客数

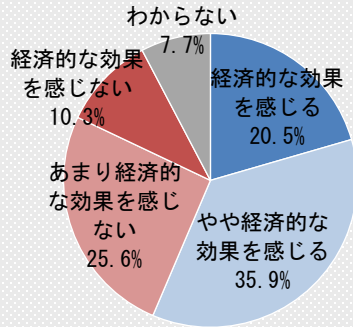
○市内を訪れる観光客の数は「増加している」「やや増加している」が79.5%であった。



[回答者数：39]

(2)市内の経済的な効果

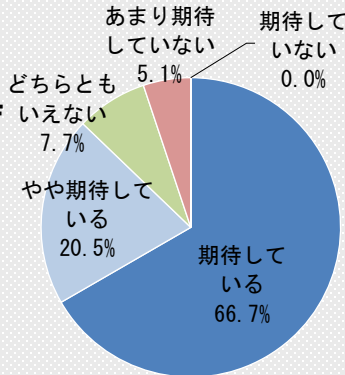
○市内の経済的な効果は、「経済的な効果を感じる」「やや経済的な効果を感じる」が56.4%であった。



[回答者数：39]

(3)今後の観光振興への期待

○期待度は、「期待している」「やや期待している」が87.2%であった。



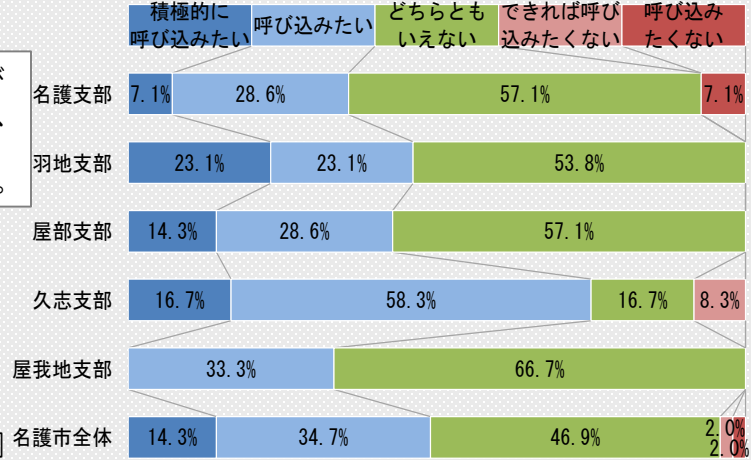
[回答者数：39]

→ 観光客の増加の実感ほどには、経済効果を実感できていない。
→ 一方で観光振興に対する期待度は大きい。

⑤住民意向調査（区長アンケート）

(1)観光客の区内への呼び込み意向

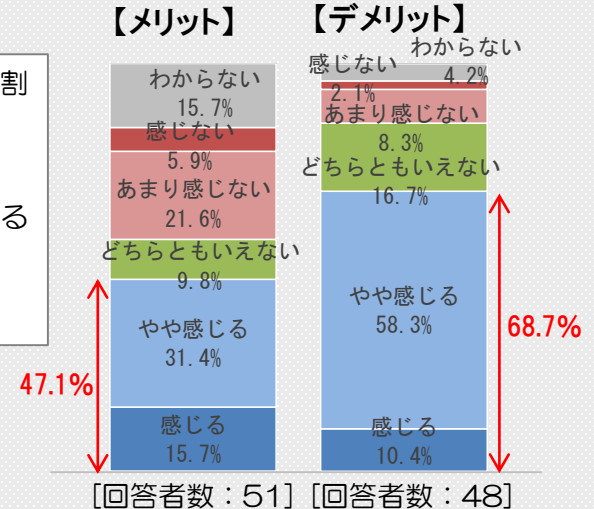
○観光客の呼び込みの意向は、地域によって異なっている。



[回答者数：51]

(2)観光振興のメリットとデメリット

○メリットと感じる割合は「感じる」、「やや感じる」で47.1%であった。
○デメリットと感じる割合は「感じる」、「やや感じる」で68.7%であった。



[回答者数：51] [回答者数：48]

→ 経済効果や雇用などのメリット創出と平行し、地域の観光振興に対する理解とルールづくり等が肝要。

第2次名護市観光振興基本計画 概要版
令和2年3月
名護市商工観光局